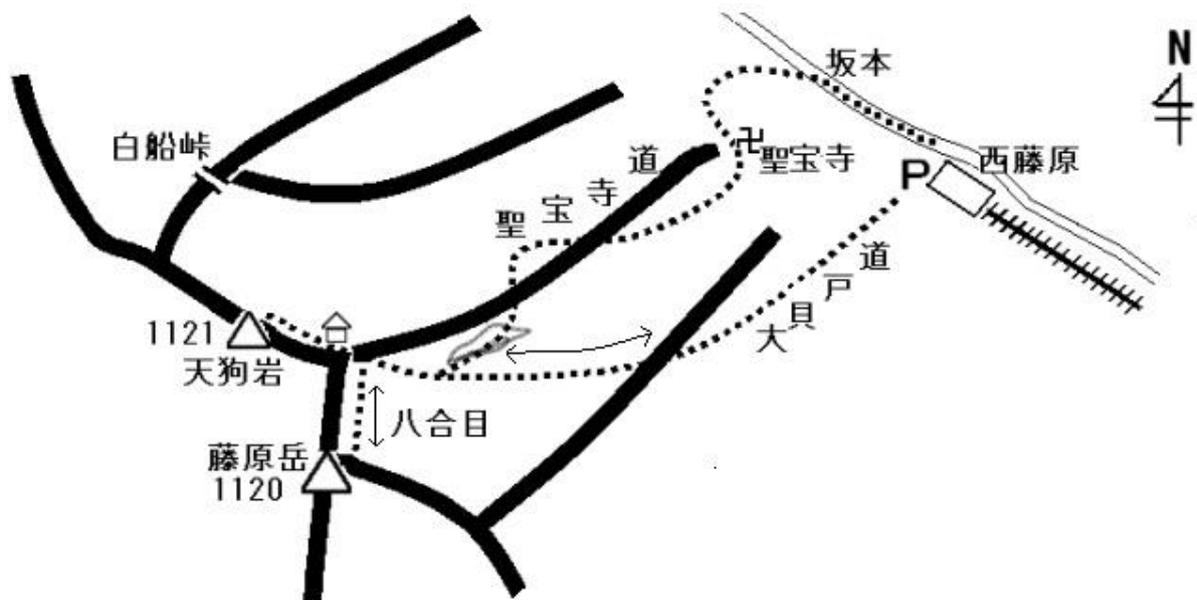


半田ファミリー山の会 2021 年 4 月度定例山行
藤原岳・大貝戸道～聖宝寺道



- 6 : 1 8 大貝戸登山口発
- 7 : 5 四合目
- 8 : 5 1 八合目
- 8 : 2 6 九合目
- 8 : 5 7 藤原山荘着
- 9 : 2 0 展望丘着
- 9 : 3 1 発
- 1 0 : 2 2 八合目聖宝寺への分岐
- 1 1 : 4 5 鳴谷登山口
- 1 2 : 0 0 聖宝寺通過
- 1 2 : 2 2 大貝戸登山口駐車場着

4月11日、鈴鹿の藤原岳で4月度の定例山行を実施した。参加者は22名。

時節柄、時差、少人数パーティーを意識して、当日は午前5時、半田を出発。午前6時には大貝戸道の登山口にある駐車場に着いたが、すでに八割方は埋まっていた。さすがにこの時期の藤原岳は人気が高い。5パーティーに分けて、それぞれ準備ができたところから出発。

天候は晴れ。早朝のひんやりとした空気が心地よい。ところどころ、足元に山桜の花びらが散っている。上を見上げると、空を透かして緑の樹間に散り残った花と薄緑の葉の一叢が覗いている。山桜はあんな高いところに花をつけていたのだ。

ゆっくりゆっくり登っていく。二合目を過ぎ、ごつごつした道から植林の下の緩やかなジグザグの道にかわる。四合目の少し開けたところで一息入れる。晴れという予報にもかかわらず、空には白い雲が広がっていたが、七合目を過ぎた頃から、時折、陽光がこぼれるようになった。七合目付近の崩壊地点から見える山裾は、濃淡の桜の花で染められて美しい。

八合目には、カタクリが二輪、花をつけていた。歩き始めると、道の左右にバイケイソウがびっしり。ところどころにショウジョウバカマが花をつけている。九合目手前ではイワウチワが固まって花をつけている。先週来た時には、この辺りで、つぼみが開いたばかりのフクジュソウを見つけてからは、上部のあちこちに金色に咲き誇っている花を見ることができたのだが、今日は「...だった」と過去形でしか言えないのが残念。今年の花は例年より一、二週間早いようだ。

最後のひと登りで藤原山荘に着く。バイオトイレはまだ閉鎖されていて半分しか使えず、並ぶ人の列ができています。

展望丘へ向かう。今日は全容がくっきりと見える。途中、びっしりと満開の白い花をつけたアセビの迷路のような林を抜け、まばらな灌木と草原状の斜面を登って展望丘のピークに着く。

9時20分。山頂に立てば、竜ヶ岳とそれに続く稜線、ふり返れば天狗岩方面の荒々しい表情が迫ってくる。下り始めた頃には、登ってくる登山者の数が増えた。藤原山荘からの下りでは、次々に登ってくる登山者とのすれ違いで、かなり時間がかかった。

八合目の手前の分岐で聖宝寺への道に入る。この道を登ってくる登山者もいつもと比べれば多いようだが、さきほどの大貝戸道とは違って、静かなものだ。植林帯を過ぎ、ガレた沢を見ながら山腹につけられた下山路は、変化に富んでいて、知らないうちに登山口に着く。鳴谷に下りて左岸に渡り、階段を登って、堰堤の上に上がってすぐに下流の階段を下る。数メートルの幅の堰堤を越えるためだけにつけられた階段だ。お寺の裏手の道に入り、養鱒場の脇を抜けると、長い石段になる。下り切ると石の鳥居と、狛犬ならぬ狛猿が両脇を固める鳴谷神社に出る。うららかな春の日差しの中を歩いて駐車場に戻った。十日前には満開の桜だった道は、新緑に変わっていた。駐車場に全員が合流したのは12時25分。全員の下山を確認して、三々五々帰半。

(洞井孝雄)